

|               |   |
|---------------|---|
| 令和2年度         |   |
| 氏名            | いとう なおや<br>伊藤 直弥  |
| 生年月日          | 昭和33年生  |
| 住所            | 高知県高岡郡四万十町  |
| 品目            | <p>四万十の栗（しまんとのくり）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 四万十川の中流域にあたる北幡地域（旧十和村と旧大正町（いずれも現四万十町）及び旧西土佐村（現四万十市））は栗の産地で、大粒で糖度が高い</li> <li>・ 生産者の高齢化や栗園の老木化により、最盛期の1/10まで生産量が激減</li> <li>・ 四万十の栗再生プロジェクト協議会を立ち上げて最新の剪定技術の導入等により生産量の増加と品質向上に取り組んでいる</li> </ul>                              |
| 技術            | <p>独自の理論に基づく栗の超低樹高栽培で地域を活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 塚本実氏による栗の超低樹高栽培法を基本に、より多収穫で美味しく無農薬で作業時間が短縮できる栽培法を自ら考案</li> <li>・ 生育段階や樹勢に応じて土壌、気候等とのバランスを最適化して生育させ、植物本来の特徴や能力を最大限に発揮させる農法</li> <li>・ 樹の成長段階に応じて短果枝から長果枝中心の剪定方法に切り替え、全ての枝葉に日光が満遍なく当たるよう調整し、樹勢を最大限に引き出すもの</li> </ul> |
| 活動状況          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成17年に農業生産法人(有)恵那栗に副代表として就任し、栗園場を開拓（8年間で20ha）、その後、四万十町で栗栽培を指導</li> <li>・ 平成28年に（一社）栗のなりわい総合研究社を起業し、独自に考案した栽培法の普及と農業による地域の活性化に注力</li> <li>・ 2.4haの栗園（四万十町1ha、岐阜県1.4ha）経営に加え、栗栽培に取り組む産地で栽培理論の講習や実習により栽培指導を展開</li> </ul>                              |
| 相談に応じられる分野・内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栗の栽培技術に係る研究開発、産地育成による地域振興</li> <li>・ 栗など農産物の加工、商品開発・販売</li> </ul>  |
| 受賞歴等          |   |
| 主な役職          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成28年～ 一般社団法人栗のなりわい総合研究社 代表理事</li> <li>・ 平成29年～令和元年 内閣府 地域活性化伝道師</li> </ul>  |
| HP            | <p>一般社団法人 栗のなりわい総合研究社（くりけん）</p> <p><a href="http://wanokuriinfo.wixsite.com/mysite">http://wanokuriinfo.wixsite.com/mysite</a></p>  |

